

【主題名】 みんなのために働く

第一学年及び第二学年 4・(2)

「働く」ことのみよびを感じて、みんなのために働く。」

【ねらい】 みんなの役に立つこと、つねえをうごかしたりして、教室をきれいにすること、自分の気持ちを表現すること。

《ねらいとする道徳的価値について》一・二年生の時期の児童は、自分のした仕事や誰かの役に立っているという感覚がまだ十分に育っていないことがあります。学校の清掃や給食などの当番活動、家庭、地域での決められた仕事など、実生活の場での意欲や態度に結び付けて、働くことのみよびを喜びに気付くことができるように指導していくことが大切です。



「家や学校で、みんなのために、どのような仕事をしていますか。」

○自分がしている仕事を思い起こし、発表し合います。友達がやっている仕事を聞き合うことで、資料への興味をもたせましょう。

○教師が、詩「けっしん」を読み聞かせます。「ぼく」への共感を高めるために、場面絵や効果音（机をそろえている時の音・黒板消しクリナーの音など）を工夫し、提示します。



「『ぼく』は、どのようなことを考えて、教室をきれいにしようか。」

○「働く」と決める気持ちは人によって様々です。「ほめられたいから」「先生を助けたいから」「汚い教室は自分が気持ち悪いから」「みんなが気持ちよく、勉強できるから」など、多様な考えがあることに気付いていきます。どの考えが正しいということではなく、児童が、互いの思いを受け止め、考えを広げていくようにします。



「黒板をふいたり、机を動かしたりしている時、『ぼく』は、どのような気持ちだったでしょうか。」

○黒板はどのくらい汚れていたのか、机はいくつくらい動かしたのかなどを想像させ、自分の体験を基に「ぼく」の気持ちを考えられるようにします。実際に机を運ばせて考えさせる動作化を取り入れるもよいでしょう。

中心発問



「教室をじっと見つめた後、拍手をしたのはどのような気持ちからでしょうか。」

○みんなのために働いたときの気持ちよさや、みんなの役に立つことのうれしさに気付くように話し合いを深めます。

《評価》 みんなのために働く気持ちについて、感じたことや考えたことを深めることができたか。



「みんなのためにがんばってはたらいて、うれしかったことはありますか。」

○低学年は資料と似た場面状況を探そうとするので、導入を思い起こさせ、場面を広げて振り返ることができるようにしましょう。
○資料で話し合ったことを基に、働くうれしさを感じたことがあるかどうかを振り返らせます。

○「心あかるく」^{p.106,107}（「わたしたちの道徳」^{p.133}も活用可能）に書き込ませます。授業後も主体的な道徳実践につながるきっかけとなるように、ワークシート欄の活用の仕方を知らせます。

【資料の特徴】「けっしん」は、第一章でありながら、中心的な読み物資料として扱える特徴があります。「活用のための指導資料」では4-（1）で活用していますが、本事例では4-（2）で活用します。場面絵や効果音を用いるなど、資料提示の工夫を行うことで、「ぼく」に自分の気持ちを重ねて考えることができる資料です。

板書例

けっしん

みんなのためのしごと

- いえ（そうじ・しょっきのかたづけ・くつそろえ）
- 学校（かかり・きゅうしょくとうばん・そうじ）

「ぼく」は、どのようなことを考えて、教室をきれいにすることをきめたのでしょうか。

- きたなすぎる。
- だれかがきれいにしなくては。
- 先生にほめられたい。
- 先生をたすけたい。
- こんなきょうしつはきもちがわるい。
- みんなのためにはたらこう。

乱れた教室を見ている時の挿絵

黒板をふいたり、つねえをうごかしたりしているとき、「ぼく」は、どのような気持ちだったでしょうか。

- たいへんだ ↓おもい 二人じゃむりだ
- ↓つかれる
- がんばろう ↓ほめられる
- ↓みんながきもちいい
- ↓じぶんがきもちいい

働いている時の挿絵

教室をじっと見つめた後、ぼくは、何を思ったのはどのような気持ちからでしょうか。

- やってよかった ○ 先生がよろこぶ
- みんなのためにになった
- 自分がやくにたった
- うれしい・気持ちいい
- 自分
- ともだち
- 先生

拍手をしている挿絵

みんなのためにがんばってはたらいて、うれしかったことはありますか。

- 教室のゆかにおちているごみに気づいたらすぐひろうようにしている
- 本だなの本を、さがしやすいようにせいとんしていたら、みんなにありがとうと言われた。

《評価》 みんなの役に立つうれしさに気付く、みんなのために働くことへの態度を育むことができたか。